

C—18 家庭浴水の衛生学的研究

1. 夏期および冬期における浴水の汚染度について

奈良女子大 花岡 利昌
市邸学園短大 ○泉谷 秀子

1. 最近公衆浴場では、厳しい規則により、浴場の衛生的向上がはかられているが、家庭浴場では自分の家の習慣と家族の衛生意識にのみ従っているので、一体どのような浴場の衛生的管理がなされているか検討するため（第一に家庭浴水の汚染度の実態をみる）。

2. 家族構成の異なる、職業の異なる、また浴場の異

なる10軒の家庭を対象に，季節別に，浴水の理化学的，細菌学的検査を衛生試験法により実施。

3. 数例の公衆浴場と比較して家庭浴水の汚染度は高い。特に濁度，大腸菌群などは，非常に高い。

また，季節別にみると，夏期には，アンモニア性窒素，大腸菌群の値が高く，冬期には濁度，過マンガン酸消費量・一般細菌が高い。

また，職業別による汚染度の差はあまりみられないが，農業，青果業などの環境の汚染されやすい職業では，汚染度が高い，また，タオルを浴槽内につける家庭では，どの検査項目においても汚染度が高い。